



7



4



5



2

1 複数の番組を担当する人気パーソナリティ板花とーやさんの収録風景。局内ブースから軽快なトークを繰り広げる 2 エフエム山陰で活躍する少数精鋭メンバー。局内はいつも和気あいあいとした雰囲気だ 3 松江市・澄水山に設置されたFM放送送信所 4 局内でCM制作の打ち合わせ。クライアントの要望をラジオでどう表現するかを話し合う 5 松江水郷祭で花火打ち上げ直前の会場から特別番組を生中継。観覧者へのインタビューなど、地元とリスナーをつなぐ夏の恒例企画として定着している 6 幅広い年代の社員で構成される社内。自由な社風で、何でも言い合える風通しの良さが魅力 7 「自由な発想で地域の“楽しい”を発信したい」と語る小村健実社長。広告会社勤務などを経て1986年のエフエム山陰開局時に入社し、2022年に現職就任した



6



3



1

また、一方でBSSラジオと協力し、山陰両県の全市町村と災害情報発信協定を締結。防災意識を高めるキャンペーンも積極的に展開している。「地域に根差した情報発信とエンタメの提供、この二つこそが地方局の使命と考えています」と語るのは小村健実社長。「地域の皆さまに日々必要な情報の発信はもちろん、災害や非常時には迅速かつ正確な情報を届けるライフラインとしての責務があります。さらに、エンタメの提供は地域の魅力を伝え、暮らしを豊かにするインフラと捉え、この二つを合わせた『ライフラインFM』をコンセプトに、地方ラジオ局としての役割を一層強化していきます」

理念を今も守り続けている。同局はTOKYO FMをキーステーションとする「ジャパンエフエムネットワーク」に加盟し、全国ネット番組から地元制作の番組まで多彩なコンテンツを発信する。ラジオは近年、「radio」などのアプリ普及により、時間や場所を問わず聴けるメディアへと進化。同局でも鳥取県出身の日向坂46・平尾帆夏さんのレギュラー番組に対し、全国規模でリスナーが増加している。地方発の番組に全国から反響が届くこうした現状は、ラジオの新しい時代を感じさせる。

スマホさえあれば何でもできる現代。それでも、声と音だけで届けるラジオの心地よさを求める人は多い。そんなラジオの魅力を発信し続ける放送局の一つが《株式会社エフエム山陰》である。1986年に山陰両県を放送エリアとする民放FM局として開局し、「地域に寄り添い、地域に貢献できるラジオ局」という

地域に根ざした情報と
エンターテインメントを発信

楽しいをカタチに！ 地域を彩るラジオ局がここにある

「V-air」の愛称で親しまれる《エフエム山陰》は、来年で開局40周年を迎える。「オープン・ラジオ・ステーション」を合言葉に、誰もが自由に発信できる開かれたラジオ局として進化を重ねている。

株式会社 エフエム山陰

創 業 昭和61 (1986) 年2月5日
代表者 代表取締役社長 小村 健実
社員数 15名 (男11名 女4名)
本 社 島根県松江市学園南1-2-1
くにびきメッセ西棟2階

事業内容

島根・鳥取 山陰両県をサービスエリアとする
圏域FMラジオ放送

勤務地(採用エリア)

松江市、鳥取市、東京都

採用区分

新卒採用

キャリア採用

インターンシップ・キャリア

無

採用担当者からあなたへ

ラジオって「オールメディア」?…いいえ、いまやSNSやポッドキャストとつながり、自由に広がる“新世代メディア”なんです。あなたの発想次第で、いくらでも進化する世界。山陰から、一緒にワクワクを発信しませんか?



営業推進局総務部長
小田 慎也さん

採用に関するお問い合わせ先

0852-27-5111

公式サイトは
こちら



Instagramは
こちら



東京支社は、キー局のTOKYO FMや大手広告代理店、スポンサー企業とのコミュニケーションを通じて、番組やCMに関する多様な業務を担い、東京から同局を支えている

地域に愛され続ける放送局を目指して

自由な発想と新たな挑戦で
100年先を見据える

エフエム山陰には、制作・事業・営業・技術の4部門があり、番組づくりからイベントまで部門同士が連携しながら企画を形にしている。『当社の強みは広い意味での自由度にあります。枠にとらわれず、面白いと思えることをどんどん実現してほしい』と小村健実社長は語る。地域に根差した少数精鋭の会社だからこそ、一人一人の挑戦が会社や地域を動かす原動力になるという。

近年はネット配信やSNS活用の依頼も増え、幅広い知識や柔軟かつ迅速な対応力が求められる場面も多い。そこで求められるのは技術力だけでなく、創造力や柔軟な発想、地域を愛する気持ち、そして本質を

見極める目も必要とされる。『でも基本は何でも面白がることでしょ。うか。人や地域の『楽しい』を生み出すことが僕らの仕事。自分たちの仕掛けによって誰かが笑顔になる瞬間こそが、この仕事の醍醐味です』

日本でラジオ放送が始まってから今年で100年。そしてエフエム山陰も来年、開局40周年を迎える。『楽しい時もつらい時も、いつでもリスナーの皆さんに寄り添える存在でありたい。そしてビジネスパートナーの方々には『エフエム山陰に相談すれば何とかしてくれる』と期待していただけよう、100年先も地域に愛される放送局を目指していきます』

40年の歩みを礎に、次の時代へ向けて新しい発想に挑み続ける同社。これから先も地域の暮らしを豊かに彩ってくれるに違いない。



子どもたちに防災ブザーを寄贈 防犯キャンペーン18年目

エフエム山陰では2008年から「防犯キャンペーン〜みんなで守ろう子どもたちの未来〜」を実施。県民みんなで子どもたちを犯罪や事故から守り、自衛意識を育ててもらうことを目的に、山陰両県の新小学1年生全員に毎年防災ブザーを寄贈している。

“楽しい”を生み出すプロフェッショナル

大好きなラジオを仕事にするため佐賀県から松江市へ

高校時代に深夜ラジオと出会い、その面白さに夢中になった白水さん。「たまたまつけたラジオがとても面白くて、勉強の合間に聴くようになりました」と振り返る。進学先の高等専門学校で就職活動を迎え、「大好きなラジオに携わる仕事がしたい」と全国のラジオ局を探し、故郷・佐賀県からエフエム山陰に入社した。

現在はデスクワークを中心に、主調整室での技術業務や運行データのチェック、番組ディレクターなど幅広い業務を担当。自身が携わった番組が電波に乗って流れるの

を聴くと、大きなやりがいを感じるという。番組づくりでは、大好きなアイドルグループの曲や感想を特集的に紹介したことも。「自分がいいと思ったことを提案できる自由な社風が自慢です」と笑顔を見せる。また、国家資格の陸上無線技術士の取得を目指して勉強中で、「試験が近づくとみんなが応援してくれるので頑張ろうと思えます」と会社のサポートに感謝している。「いろいろなことに挑戦するチャンスをくれる会社。いつか“白水がいてよかった”と言われる存在になりたい」と、これからの目標を語った。



営業推進局業務部
白水 希龍さん
佐賀県出身

同局主催のコンテストを縁にラジオのパーソナリティに

大学時代、同局が主催するアマチュアバンドコンテストに出場し、見事グランプリを獲得。その経験が縁にバンド解散後も番組ADとして制作に携わり、その後正式に入社すること。

現在は冠番組「田村奏のBe Lucky!」をはじめとした番組パーソナリティのほか、ディレクターとして番組制作にも関わるなど、多彩な役割を担っている。「仕事は大変なこともあります、多くのアーティストと一緒に仕事をしたりインタビューをしたりと、直接関わることができるのはこの仕事

の特権です」と笑顔で話す。入社4年目を迎え、街でリスナーから声をかけられる機会も増えてきた。「聴いてますよ」と声をかけられると素直にうれしいですし、もっと頑張ろうという気持ちになります。同時に、うかつな言動はできないと身が引き締まります。今後は編集技術のスキルを磨き、番組のクオリティをさらに高めていくことが目標。「自分の好きなことを仕事にでき、やりたいことをらせてもらえる会社です。ラジオや音楽が好きな人には、とても楽しい職場だと思いますよ!」



放送事業局
田村 奏さん
松江市出身

CMからイベントまで、すべてを支えるオールラウンダー

東京の大学を卒業後、ラジオ業界を志して同局へ入社。現在は鳥取支社長として、営業から企画、制作まで、本社機能を凝縮したような業務をすべて担っている。「ラジオCMの企画から制作・放送までの一連の行程、イベントの企画・打ち合わせ、現場運営、加えて音声素材の編集も手がけます」と今岡支社長。時にはイベントMCを務めることもあり、鳥取県主催のイベント「とっとりメジャーリーグ」では進行を務めるなど、多岐にわたる業務をオールマイティにこなしている。「大変な分、やりがいも大きい。

イベントが無事に終わった時やCMに反響があった時などには達成感を感じます」と話す。

大規模なラジオ局では仕事が細分化されがちだが、同局のように少人数体制だからこそ放送に関わるあらゆる側面を学び、多彩な技術とスキルを磨けるのが魅力だという。「近年はラジオアプリの普及で新しいリスナー層が増えていきます。鳥取支社として、これからもCMや番組、イベントを通してラジオの魅力を広めていきたいですね」と力強く語った。



鳥取支社 支社長
今岡 弘義さん
出雲市出身